

第1回熊本城復旧基本計画策定委員会

I 開催日時等

1. 日 時：平成29年5月8日（月）午後1時30分から午後3時20分まで
2. 場 所：熊本市役所議会棟2階 議運・理事会室
3. 事務局：熊本市経済観光局 熊本城総合事務所

II 次第及び議事等

1. 開会
2. 委嘱状交付及び委員紹介
3. 副市長挨拶
4. 委員長及び副委員長選任
 - ・ 蓑茂委員を委員長、吉丸委員を副委員長に選任
5. 議事及び報告
 - (1) 熊本城復旧基本方針について
 - (2) 熊本城復旧基本計画の構成案と検討体制等について
 - ・ 4月17日保存活用委員会と同様の資料にて説明
 - (3) 熊本城復旧手順の考え方と段階的公開に向けて
 - ・ 工区エリア設定、復旧の着手優先度の考え方（案）について事務局より説明
→ 考え方（案）を基に次回までに復旧計画素案を作成していくことを了承。

III 主な意見

<基本方針2：復興のシンボル天守閣の早期復旧>

- ・ 展示については、ただ入れ物を作って中に詰め込むのではなく、入れるものを先に決めることが重要。
- ・ 天守閣のバリアフリー化については、市民の皆さんにも示せるような形がいいと思う。
- ・ エレベーター設置は良いが、運用面がうまくいかなければバリアフリーの意味をなさないのでしっかり検討をお願いしたい。

<基本方針3：石垣・建造物等の文化財的価値保全と計画的復旧>

- ・ 東日本大震災後も復興ツーリズムでは2年目が一番多くの参加者があった。また、熊本地震後、熊本観光の中で大きく水準を下げているのが教育旅行、就学旅行で7割減となっている。復興ツーリズムの地盤が固まると修学旅行の再誘致に繋がる側面もある。これからどのくらいどのように公開するかだけでなく、分かっている段階で情報だけでも出してもらいたい。
- ・ スケジュールは短期と中期だけでなく、30年度、31年度、年度別にどこまでできるのかというのを出来るだけ早く提示して欲しい。経済界として非常に大事だし、一般県民・観光客にとっても関心がある。

<基本方針4：復旧過程の段階的公開と活用>

- 復旧過程を見せる部分で、プログラム開発のようなものも基本計画の中に入れていかないと観光や元気な熊本には繋がっていかない。ソフトウェアについても少し検討を進めていただきたい。
- 中心市街地の再開発では、進捗状況を知らせるために「まちづくりテラス」を設けているが、このような施設が熊本城にあった方がよい。立入規制区域外の二の丸広場などに瓦葺きの原寸模型などインフォメーションボックスみたいな仮設があるとみんながすぐ分かりよい。観光客が暑いから休憩所というニーズの発想だけでなく、想いにウォンツに応えるようなことをやると良いと思う。

<基本方針5：最新技術も活用した安全対策の検討>

- 地域の人達とよく話をする中で、将来的に亘ってどの程度の地震に耐えられるのかが大きな意見として出ており、工事の進め方については市民の皆さんなどに是非分かり易く説明していく必要があると思う。
- 天守閣の耐震性を向上させるため、歴史を崩さない範囲で出来るだけ良いものにしていきたい。
- 明治の時に壊れた場所が何故もう一度壊れたかということを検証したり、耐震のことを考えたりしないと復旧してもまた同じことが起こる。元のとおり積みばよいという話ではないと思うので、しっかり研究して積み直しをして欲しい。
- どこが壊れたか、今回と前回でどこが壊れたかということと地盤との関係は無関係ではないと考えるのが普通。今後石垣を復旧していく際、地盤の支える力がどのくらいあるのかということきちんと調査しないと根本的な耐震化という話にならない。地盤調査はかなり綿密にやっていただいた方がよい。
- 石垣の根石が壊れているのはどこにもないので、必ずしも地盤に左右されたかというところではない。お城の成り立ちが基本的に壊されるような改造はまずいと思う。

<基本方針6：100年先を見据えた復元への礎づくり>

- 継続的な復旧を支える人づくりに関しては、文化庁の選定技術保持団体に選定されている全国石垣保存協議会という石工と文化財コンサルで構成される団体もあるので、是非そのような団体も有効に活用していただきたい。
- 語り部教育や20年後も案内できるような体制づくりをお願いしたい。